

いのちとくらしをまもる
防 災 減 災

九頭竜川流域における 流域治水プロジェクトの検討

令和2年9月16日


福井河川国道事務所

①国管理河川における「治水対策」の確認(再掲)
・河川整備計画に位置付けた河川改修等を位置付け
⇒九頭竜川水系で計画されている「河川対策」の全体像が見える化

②県管理河川における「治水対策」の確認
・河川整備計画に位置付けた河川改修等を位置付け
⇒九頭竜川水系で計画されている「河川対策」の全体像が見える化

③国・県・市町における「減災対策」の確認
・大規模氾濫減災協議会の取組方針に位置付けた減災対策等を位置付け
⇒九頭竜川水系で計画されている「河川対策」と「減災対策」の全体像が見える化

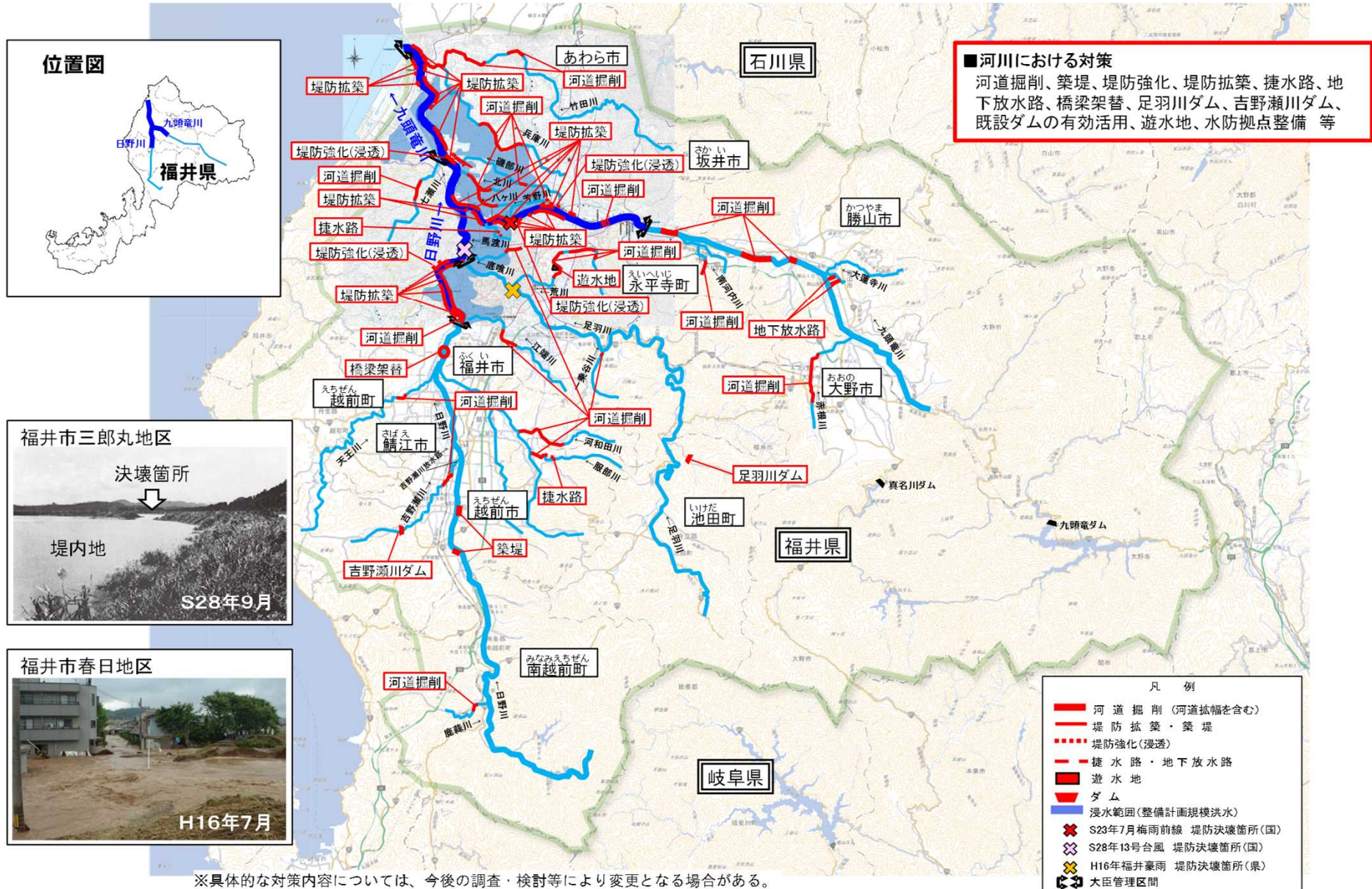
④国・県・市町における「流域対策」の確認
・各機関が実施している流域対策を踏まえ拡充を検討のうえ位置付け
⇒九頭竜川水系で計画されている「河川対策」と「ソフト対策」と「流域対策」の全体像が見える化



九頭竜川水系で計画されている「河川対策」と「ソフト対策」と「流域対策」の全体像として【九頭竜川流域プロジェクト】が完成し、これを基に【防災・減災対策の取組方針】を策定

2. 流域治水プロジェクトの検討状況(河川対策)

- 九頭竜川水系における県管理河川についても、国管理河川と同様に河川整備計画に位置付けた“河川対策”の全体像を、見える化しました。
- 国と県が連携を強化し、事前防災対策を更に加速していく必要があります。



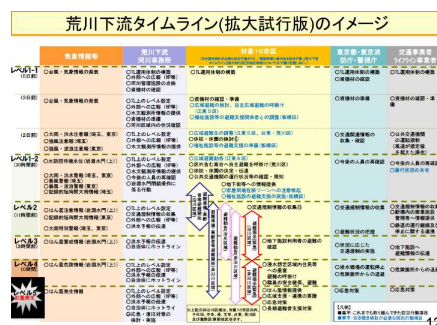
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

- 九頭竜川水系における各大規模氾濫減災協議会の取組方針に位置付けた“ソフト対策”の全体像を、見える化しました。
- 国県市町が連携し、水防災意識社会再構築の実現に向け実践の継続が必要です。

- ・関係者の役割分担をより明確にしたタイムラインの改良
 - ・ダム下流河川の避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成
 - ・ハザードマップの更新・周知(想定最大規模の降雨を対象)
 - ・市町を超えた広域避難計画の検討
 - ・災害時における逃げ遅れをなくすため、避難行動要支援者の避難計画の検討
 - ・防災啓発活動を推進させるため、域内全教育委員会へ積極的に働きかける
 - ・小中学校等と連携した防災に関する出前講座の取組み
 - ・高齢者の避難行動の理解促進のための地域包括支援センター・ケアマネジャーとの連携
 - ・重要水防箇所の情報共有と関係市町による共同点検の実施
 - ・洪水時のダムの貯水池の状況を伝えるための手段の充実
 - ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成および避難訓練実施の促進支援
 - ・水位周知河川等の見直し ・氾濫危険水位等の基準水位の見直し
 - ・庁舎受電設備、非常用発電設備等の浸水対策 ・水位計、量水標、カメラ設置
- ※今後、関係機関と連携し対策検討



避難確保計画



多機関連携型タイムライン



洪水ハザードマップ更新



関係機関との共同点検

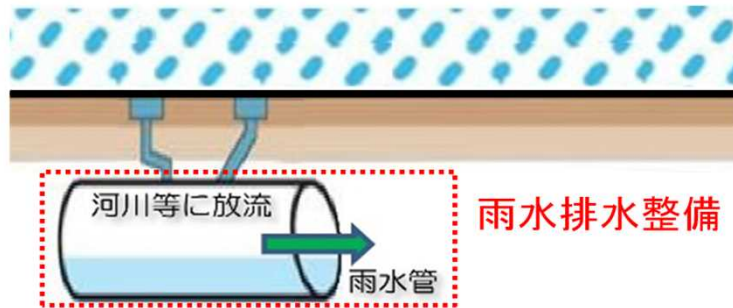


小学校での出前講座

- 九頭竜川水系において現時点で計画されている“流域対策”を抽出し、全体像を見える化しました。
- 全国の先進的な事例等を踏まえ、国県市町が連携し地域の実情に応じて流域治水を進めていくことが必要です。

- ・下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備
 - ・利水ダム等15ダムにおける事前放流等の体制構築、実施
(関係者:国、福井県、福井市、勝山市、永平寺町、北陸電力(株)、電源開発(株)等)
 - ・土地利用規制・誘導(災害危険区域等)の検討等
- ※今後、関係機関と連携し対策検討

■下水道の雨水排水整備の例



下水道の雨水排水整備(福井市・勝山市・鯖江市・あわら市)

■雨水タンクの設置例



■止水版の設置例



■設置補助の例

補助対象施設名	雨水タンク	止水板
補助金額	対象経費の1/2を補助	対象経費の2/3を補助
限度額	200ℓ以上～500ℓ未満 上限 20,000円 500ℓ以上～1,000ℓ未満 上限 45,000円 1,000ℓ以上 上限 60,000円	上限 500,000円

雨水貯留設備等の整備・助成(福井市・鯖江市)

田んぼダムってどうするの？

田んぼダムのイメージ

田んぼの排水口に排水管より小さな穴の開いた調整板などを取り付けるだけで、簡単に取り組むことができます。

雨水を一時的にためて、時間をかけて少しずつ流すことにより、排水路等の増水が軽減されます。

※設置のイメージ写真

※排水管径を小さくするだけなので、田んぼに水が溜まりつつけることはありません

田んぼの整備(福井市・鯖江市・越前市)

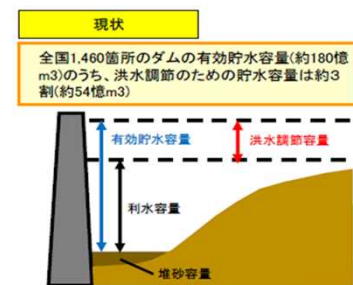
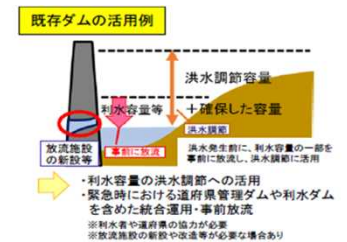


表 全国のダムの容量内訳

洪水調節容量	利水容量	有効貯水容量
5,394[百万m ³]	12,670[百万m ³]	18,064[百万m ³]



既存ダムの洪水調節機能強化に向けた基本方針

全ての既存ダムを対象に検証を行い、国管理の1級水系について令和2年の出水期から新たな運用を開始するとともに、都道府県管理の2級水系についても、令和2年度より1級水系の取組を展開し、緊急性等に応じて順次実行していく予定。

既存ダムにおける事前放流

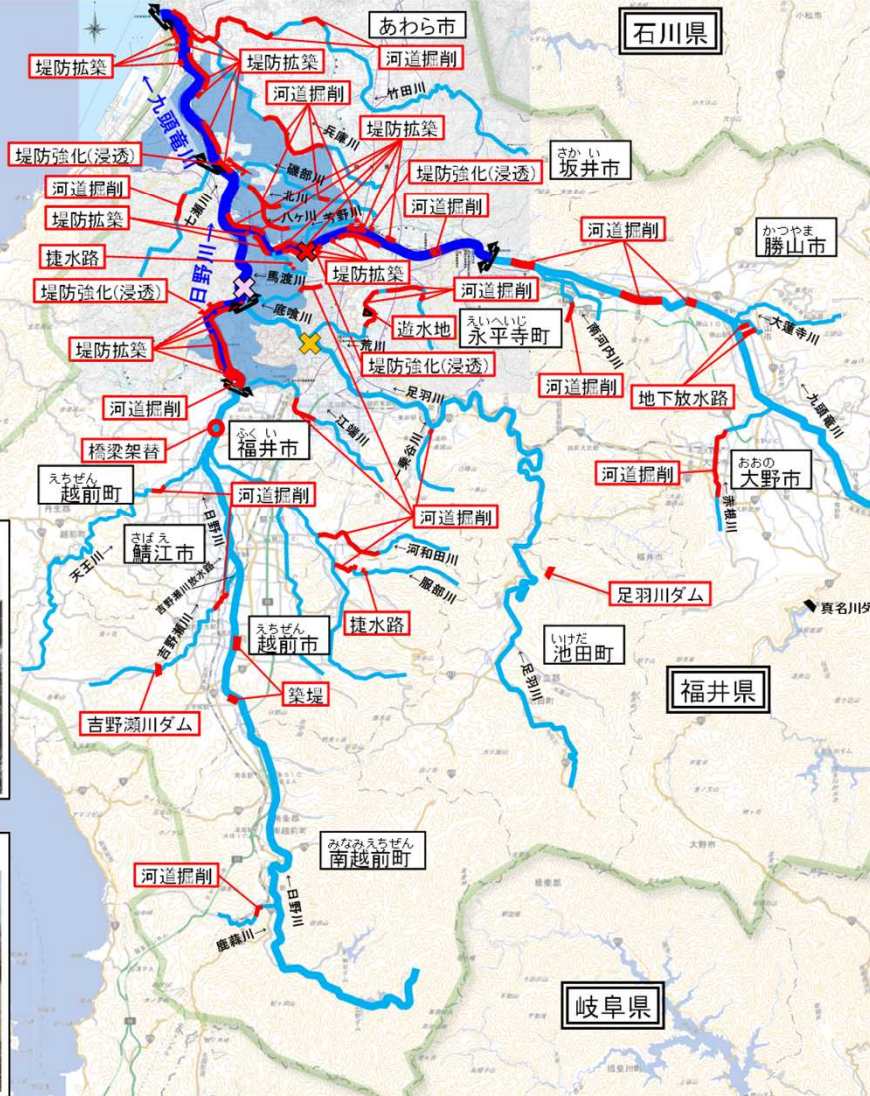
現場で緊急的に対策を進めながら、流域の関係者全員と協働した取り組みとして推進していくためには、流域治水プロジェクトの全体像を社会全体で共有することが必要です。

- 全国で109の一級水系における流域治水協議会において、それぞれの流域特性に応じた流域治水プロジェクトの検討が進められ、これらの検討状況をそれぞれ「中間とりまとめ(案)」として整理することになりました。
- 「中間とりまとめ(案)」には、国土交通省のホームページで既公表の「流域治水プロジェクト(素案)」に、福井県管理区間の河川対策と、具体的な流域対策及びソフト対策を加えました。
- 今後、協議会で検討を進め「流域治水プロジェクト」を策定し、あらゆる関係者が協働して流域全体で防災・減災対策を推進していきます。

○現時点における河川対策・ソフト対策・流域対策の今後の全体像が見える化し、関係機関で共有することで、今後は各対策を拡充させ流域治水を推進していきます。

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、九頭竜川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、戦後最大規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。

位置図



■河川における対策

河道掘削、築堤、堤防強化、堤防拡築、捷水路、地下放水路、橋梁架替、足羽川ダム、吉野瀬川ダム、既設ダムの有効活用、遊水地、水防拠点整備 等

■流域における対策

- ・下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備
- ・利水ダム等15ダムにおける事前放流等の体制構築、実施(関係者:国、福井県、福井市、勝山市、永平寺町、北陸電力(株)、電源開発(株)等)
- ・土地利用規制・誘導(災害危険区域等)の検討
- ・田んぼダムの整備 等

※今後、関係機関と連携し対策検討

■ソフト対策

- ・関係者の役割分担をより明確にしたタイムラインの改良
- ・ダム下流河川の避難勧告等の発令に着目したタイムラインの作成
- ・ハザードマップの更新・周知(想定最大規模の降雨を対象)
- ・市町を超えた広域避難計画の検討
- ・災害時における逃げ遅れをなくすため、避難行動要支援者の避難計画の検討
- ・防災啓発活動を推進させるため、域内全教育委員会へ積極的に働きかける
- ・小中学校等と連携した防災に関する出前講座の取組み
- ・高齢者の避難行動の理解促進のための地域包括支援センター・ケアマネジャーとの連携
- ・水位計、量水標、カメラ設置
- ・重要水防箇所の情報共有と関係市町による共同点検の実施
- ・洪水時のダムの貯水池の状況を伝えるための手段の充実
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成および避難訓練実施の促進支援
- ・水位周知河川等の見直し・氾濫危険水位等の基準水位の見直し
- ・庁舎受電設備、非常用発電設備等の浸水対策

※今後、関係機関と連携し対策検討



凡 例	
	河道掘削(河道拡幅を含む)
	堤防拡築・築堤
	堤防強化(浸透)
	捷水路・地下放水路
	遊水地
	ダム
	浸水範囲(整備計画規模洪水)
	S23年7月梅雨前線 堤防決壊箇所(国)
	S28年13号台風 堤防決壊箇所(国)
	H16年福井豪雨 堤防決壊箇所(県)
	大臣管理区間

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

